

様式 1 1

指定管理者の評価に係る合議の概要

施設名	箕面市立船場図書館
指定管理者名	国立大学法人 大阪大学
開催日	令和6年（2024年）9月11日（水）
開催場所	箕面市立船場図書館 3階 AVcommons
合議の出席者	箕面船場まちづくり協議会 文化分科会座長 福留 和彦 氏 おはなしサークル たんぽぽ 稲葉 多佳子 氏 船場図書館 利用者 稲垣 房子 氏

*傍聴者：1名

【概要】別添のとおり

【概要】

内容

令和6年9月11日（水）に箕面市立船場図書館にて、指定管理者にかかる合議を実施いたしました。その中で合議メンバーより以下のような意見がありました。

1) 指定管理者の管理運営に関する評価シートについて

①おはなし会事業の実施について

- ・大人向けのおはなし会がおもしろい試みだ。どのような絵本を選んでいるのか。

（説明）

1 回目は絵本について、判型による表現の違いなどのレクチャーも含めた読み聞かせができるものを、2 回目は高齢者向けに体を動かして脳を活性化するとして、参加者と一緒に体を動かせるものを選んでいく。

- ・お父さんのための絵本講座を実施するのはどうか。

（説明）

お父さんが土日に図書館で親子一緒に本を読んでいることが多い。ニーズがあり、喜ばれると思う。現在は対象をしばらく大人向けと子ども向けに分けているだけだが、対象を限定することも検討する。

②地域の関連団体・住民との連携について

- ・多言語対応について、箕面市国際交流協会（以下 MAFGA と記載）とは具体的にどのような連携をしているのか？

（説明）

昨年度 MAFGA に、購入した多言語絵本の活用方法について相談した。その際に「外国にルーツを持つ方に、ボランティアに来てもらうだけというのは難しい。船場図書館をよく利用されるかたがいて、船場図書館で何かしたいと思ってもらえて、それがボランティアにつながるというのが理想」という話を伺った。

今年度は、阪大ふくふくセンター（大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター：外国にルーツを持つ子どもたちへの支援活動を行う機関）も含めた三者で、多言語のおはなし会（絵本の読み聞かせ）実施について検討した。その際に、多言語のおはなし会は、阪大外国語学部等がすでに行っているイベントと内容が重複するため、まずは船場図書館が来やすい所だと思ってもらうことをということで、9月から毎週木曜日にAVコモンズで、外国にルーツを持つ子ども向けの学習支援事業を実施している。そのプレオープンイベントとして、8月に折り紙などの工作や夏休みの宿題支援を行った。その場でフィリピンから来たばかりの子どもに図書館所蔵のフィリピンの絵本を見てもらった。絵本の読み聞かせにはまだつながっていないが、図書館で何か発表してみたいと思ってもらえるようになるのが理想的だと話している。

- ・図書館のホームページでは、今話のあった事業などが分かりにくい。もう少し上手く広報できないか。

- ・市図書館の利用案内は Google 翻訳を使う仕様になっているようだが、他市町村の図書館では、大阪市立のように他の言語で掲載しているところがあるので、それを参考に、活動内容がわかるような広報の工夫をしてほしい。また、やさしい日本語で利用案内を作ってはどうか。

（説明）

ホームページは求められる水準にもよるが、考えてみる。

まずは、やさしい日本語の利用案内を阪大ふくふくセンターや市と連携をとりながら進めていきたい。

③図書館利用講座について

- ・内容が図書館に関することなのに、閉鎖空間である生涯学習センターで実施して

いることに疑問を感じた。図書館内の例えば開放的な AV コモンズで実施した方が、市民にもどんな事業をしているかアピールになってより良いのではないか。

（説明）

大学連携企画の一環であり、生涯学習センターの広報や集客力で、図書館単独で実施するより広い層に数多く来てもらえるという利点がある。図書館書庫の見学がプログラムに含まれており、市民に図書館を見ていただく機会はある。

・「図書館でわがまち探訪」は内容が良かったのだと思う。民生委員に限らず地域ニーズはいろいろあるので、郷土資料館とも協力して続けていってほしい。また、北摂アーカイブスは現在どうなっているのか。自治体の地域資料を所蔵することは図書館の大きな役割であり、船場地域はどんどん変わっていているので写真を残していけたら良いと思う。図書館だけでは難しいので、郷土資料館などで継続していけないか。

（説明）

豊中市立図書館が活動をサポートしており、豊中市民の活動は継続しているが、箕面の方は活動が途絶えている状況。現在は図書館ホームページで北摂アーカイブスへのリンクを掲載しているのみとなっている。

④自習専用席について

・自習席を利用できるか大学生が問い合わせたところ、利用できないと言われ帰ってきたのだが、自習席を大学生が使うことはできないのか。

（説明）

自習席は中高生を対象としており、大学生は館内の他の座席が使える。説明不足で申し訳ない。説明方法を改善したい。

2) 利用者アンケートについて

①総合的な印象について

期待どおりかどうかを聞く設問があるが、利用者の期待は個々のイメージに過ぎない。図書館の潜在的な可能性をサービス提供者側から考えてどう提示できるかが大事ではないか。

②年代別の回答率について

アンケートで 20 代の回答率が大変低いことが気になった。30 代 40 代は多いが、20 代が少ない。アンケートの中では属性についての回答もあり、各々の属性に向けたサービスのあり方を整理した方が良いのではないか。

③自由記述について

・「大型本を読むスペースがない」というものがあつた。複数の本を並べて調べものをする場合は相当大的なテーブルが必要にはなる。目的に沿った資料の活用ができるような環境があるのかが大事である。船場図書館の特性である市立図書館と大学図書館の融合という新しい個性をふまえて、「本を中心にした学びの環境」をもっと打ち出してほしい。

・3・4階に上がりにくい印象がある。上の階にも上がって良いですよ、というアナウンスが必要ではないか。

様式 1 1

3) 指摘事項改善進捗チェックシートについて

①にぎやかエリアについて

「にぎやかエリアが広すぎて落ち着かない」という意見を以前出したが、利用者アンケートでは広いことへの好意的意見も多いようで、一概にどちらが良いとは言えない。この意見についてはチェックシートから外していただいていい。

4) 総評

アンケート結果については概ね満足度は高く、全体的に好印象となっている。

合議は今回で3回目だが、毎年課題に真摯に向き合っていて評価できる、学校図書館への大学蔵書の貸出や多文化サービスを進めており、駅の開業による来館者の増加もあり、サービスが充実してきている、という声が評価委員からあった。

本施設管理運営については、大学法人が指定管理者であるという特色を活かした運営が行われており、今後より一層実施事業へ反映していけるものと期待している。

以上により、総じて指定管理者として円滑な運営を行っている、市として評価する。